

一カク



教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会

2月15日に教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会が開催されました。リトルトーキョーサービスセンターの尾本亜弓クリニカルディレクターをお迎えしメンタルヘルスについて勉強させて頂きました。Zoomを含め、合計68名の参加がありました。

天理教アメリカ伝道庁

No.928

MARCH

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



— 営業と“にをいがけ” (4) —

今年も早いもので3月となりました。

今月は春季霊祭を執り行います。これからも先人たちの御功績を台にして活動を推進し、その御功績を次世代に伝えていただきたいと存じます。どうぞ宜しくお願いします。

また、教祖140年祭まで1年を切っていますが、残りの年祭活動の期間、各々の目標に向かって勇んでお通りいただきたいと存じます。その一環として、4月や5月になれば、各地区でのひのきしんデーが開催されますので、ご参加いただきたいと思います。また、5月末、或いは6月初旬に、各地区で年祭活動の一環として「ようぼく一斉活動日」が開催されますので、同じ地域に住む皆さんが繋がりが合い、勇ませ合いながら活動日を有意義な時間にしていただきたいと存じます。

それから、今月16日でロサンゼルス市周辺の山火事への募金（義捐金）活動を終了します。少しでも多くの義捐金を集められればと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

さて、過去3回、「コカ・コーラを日本一売った男の学びの営業日誌」（山岡彰彦著、講談社）という新書を元にして「熟々浅学」を書いてきました。更に数ヶ月、この本を題材にして書くことは可能ですが、今月で終わりにしたいと思います。

・昨日までの自分を模倣しない（前述書、86頁）

営業では物を売ることが仕事ですが、簡単ではありません。

ある日の朝礼で営業成績の良い先輩が「皆さんワシが楽勝でモノを売ってきていると思っているでしょう。でも、ワシは小柄で見ての通り迫力もない。このように話し方もそれほど上手い訳じゃない。得意先にきつい言葉で断られたら、それなりに落ち込むし、その店に行くのが嫌になることもある。でも、一つだけみんなと違うと思うところがある。昨日までの自分を模倣しないことだ」と話したので。そして「昨日までの自分を模倣しない。同じことを繰り返さない。これが営業ですと成績を上げていくためのコツの一つだ」と続けたのです。

戸別訪問をしていて、同じことの繰り返しが多いと

思います。私もその一人でした。毎日同じことの繰り返しを続けているとだんだんと足が重たくなって、しまいには足が止ってしまいます。かつて布教に歩いてきた日々、ある日、気が重くなって一日中公園のベンチに座っていたことがありました。何もしたくなくなり、ボーッと過ごしていたのです。

同じことの繰り返しに無駄はないと思っていますが、その場合、しっかりと人のたすかりを願っている心とか、陽気ぐらしを目指して行っているという前向きな心を持っていることが肝心です。そうでなければ、ただ単に毎日を過ごしてしまうだけになります。

先の話のように、戸別訪問でも何かしら工夫が必要です。声の掛け方を変えたり、話の順序や教語を簡単な表現に変えたりすると、ケースバイケースで違うアプローチを心掛けることも大切なのではないのでしょうか。陽気ぐらしを目指すという目標設定は同じでも、日々の心の遣い方に工夫があれば、毎日変化が現れて、新たな一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。

・変わらないのではない、変えようとしなだけで（前述書、90頁）

著者は、営業の担当地域替えがあった時に前任者から引き継いだ店の様子を聞きます。前任者から「この店はこれから伸びる」と聞かされても実際にはそうではないことがありました。また、「あそこの店主は難しい」とアドバイスを受けた店主が、実際は気さくで話しやすいというような経験をしました。

市の中心街に在る立地条件がよい店がありました。そのような場所であれば売り上げがよいはずですが、この店は“売れない店”でした。その原因は店主が元中学生教師で厳格で規律正しく、そのため客に対して厳しい言葉を投げかける一面があったからです。つまり、店主の難しい性格が売り上げに影響していたのです。そのため前任者から引き継いだ時には「この店はダメだ」というレッテルが貼られていて、その影響で著者はその店に対して熱心に営業することはなかったのです。

しかしある日、上司とその店の前を車で通った時、誰が担当しているのかと尋ねられ、著者が担当してい

る旨を答えたところ、「ウチの商品を売っているのかどうか、外から見ても全然わからないなあ。担当者ならそこは気づくべきではないのか」と注意されたのです。そこで、その店の状況を説明すると「確かに人間だから苦手な相手がいても仕方ないが、何もしないというのは順番が違うんじゃないか。店主が難しいから何もできないのではなくて、自分の先入観で何もやれない。これはダメだと思いついてるんじゃないか」と諭されたのです。

そこで、著者は翌週の訪問時に勇気を出して「新しい広告を持ってきましたが、いかがでしょうか。せっかくだから店頭でアピールしませんか」と店主に切り出したのです。そうすると店主の反応がよかったため、他の提案もしました。そうすると店主は「いままで、そんなことを言うてるセールスはいなかったが…」と答えたのです。これをきっかけに著者の提案に耳を傾けてくれるようになり、この店は“信じられないくらい売れる店”へと変貌したのです。

布教に於いても“先入観”があったり“相性”があったりして、にをいかけ、おたすげが鈍ることがあると思います。“難しい”と前会長から聞かされていた信者さんでも、実際に会って話すと普通に会話ができることがあると思うのです。“先入観”の影響で好ましくないと思っている人間関係があっても、実は自分自身が好ましくないと思っているだけで、人間関係を改善しようという努力をしていないだけなのかもしれません。

・礼儀正しさと傾聴は最強の武器となる（前述書、112頁）

著者はある日、小売店などに瓶、缶、ペットボトルなど売る営業部署から、“フードサービス”というファミリーレストランやファストフードなどにある設置してある原液を希釈して飲める状態にする飲料を提供するドリンクバーなどの機械を売る部署に異動になりました。つまり、取引先が小売店からレストランなどになったのです。

ある日、市内のホテルがピヤガーデンをスタートさせると知り、早速アポイントメントの電話を入れたところ、ホテルフロントは、料理長に電話を繋いでくれたのです。

商談のためのアポイントメントを取り、約束の時間にホテルに赴きました。暫く経っても料理長が現れませんでした。待っていると突然、料理長から声を掛けられたのです。

早速、商談を始めましたが、まずは料理長の話にひたすら耳を傾けて聴き役をしました。料理長の要望や意見に応じて提案するだけで、商品や機材の説明はほとんど出来ず、また、料理長の話のポイントのメモを取っているうちに時間が過ぎていきました。暫くして、「よし、じゃあ、頼んだよ。後のことはこの担当者と段取りを進めてくれるか。任せたらなあ」と料理長に言われ、そして「あ、

それからウチの会に出てみないか、いろんな業者が来ているから何かの足しになるかもしれないぞ」と言われたのです。

この料理長は全日本司厨士（しちゅうし）協会（All Japan Chefs Association）という西洋料理を専門とした料理人で構成されている組織の要職を務めていたのです。その協会にはレストラン、ホテル、大きなアミューズメント施設の食を担っている人々が会員になっていました。そのため、後日、この協会の会合にて取引先の新規開拓が出来たのです。

ある日の会合の席で著者はその料理長に「何故商談の際に、全く営業ができなかった私をこの会合に誘ってくれたのか」ということを尋ねました。料理長は「営業としては失格だと。そんなことはない。（中略）私のところにもいろいろな営業の人間がやってくるが、そのほとんどは自分たちの商品と条件がいかに良いかを並べるだけだ。こちらの望むことはやってくれるものではなく、やって欲しいものだ。そのためにはお客様であるこちらのお話をしっかり聴くことだ。君は私の話にずっと耳を傾けて、私が考えていることや、やりたいことをかたちにするためにどうすればいいのかを一緒に考えてくれた。（中略）それが営業の人間にとっては一番大切な姿勢だ。しかも礼儀正しく言葉を選んで応えてくれた。（中略）礼儀正しくあることと人の話をきちんと聴くこと、この二つを軽んじるなよ」と言われたのです。

布教でも同様でしょう。まずは相手の話に真摯に耳を傾けることは大切です。そしてその時、その場面に応じた言葉を選んで相手に教えることが大切だと思うのです。

今月号まで4回に亘って「コカ・コーラを日本一売った男の学びの営業日誌」の本の小見出しを使って書いてきました。営業に関する話ですが、「にをいかけ」、また人を育てるために役立つ内容だと思っていて書いてきました。他にもいろいろと本書に書いてありますので、もし興味のある方は本書を読んで参考にしてもらえればと思います（残念ながら日本語のみです）。

もちろん、私たち天理教信者はこの世界を陽気ぐらしへと立て替えるために活動を行っていますが、「営業」は主に会社の利益のために行っていますので、「にをいかけ」と「営業」は根本的に違います。この点を押さえて本書を参考にしていただければと思います。

深谷 洋

立教188年二月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、一れつ人間の陽気ぐらしを楽しみに、日夜変わることなくお見守りくださいますお陰により、日々を無事無難に通らせていただいております御守護の程は、誠に有難く、勿体ない限りでございませう。私共は朝夕怠ることなく御礼申し上げると共に、このアメリカ、カナダの地にて、それぞれの持ち場立場で、たすけ一条の道を心明るく通らせていただいております。その中にも今日の吉日は、当伝道庁の二月月次祭を執り行う芽出度い日柄でございませうので、只今より、ちばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせ、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみに参り集いましたよふぼく、信者一同が、日頃賜ります御厚恩に御礼申し上げ、更なる成人をお誓いし、尚も変わらぬ御守護にお縋りたいと、声高らかにお歌を唱和する状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

昨日は、管内の龍頭となる者が寄り集い、研修会を開催しましたが、教祖百四十年祭年祭活動仕上げの今年の弾みとなる機会となりました。教祖年祭に向けて、龍頭となる者が先頭に立ち、勇んでにをいがけ、おたすけに励めますようお育ての程をお願い申し上げます。

私共は、先月のロサンゼルス市周辺の山火事を始め、世上にお見せくださるさまざまな災害や、また、戦争、紛争などの姿を鑑みて、たすけ心を以て、教祖百四十年祭の年祭活動三年目の活動を更に活発に推し進め、陽気ぐらしを目指して勇躍邁進する覚悟でございませう。また、次世代に素晴らしい御教えを伝えたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、届かぬ点、至らぬところは幾重にもお仕込みくださいましてお連れ通りいただき、一日でも早く、世界の人々が手を取り合せて暮らせる世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

二月月次祭神殿講話

グランビル教会長
国領 ロバート 悟

本日、皆様とともに月次祭に参拝できたことを大変嬉しく思います。最近、直接参拝出来ることが少なくなっており、現代のテクノロジーでつながることはできますが、直接参拝させて頂くこと、皆さんに会ってハグできることに勝るものはないと思います。これからはばらくの間、私の状況について思うところを述べさせていただければ幸いです。

現代のテクノロジーと言いますとズームやマイクロソフト・チームズなどを通じてつながることができることを、いまだに私が不思議に思っていることに対して、多くの人がクスクスと笑うかもしれません。こんなことは何もエキサイトすることではないと思う人もいるかもしれませんが、私の経験や知識からすると、身の回りで利用できるようになってくるものには常に驚かされますし、これらの素晴らしいツールや視点に対する私の認識や適応は非常に遅れています。詳しい人たちが私に一生懸命説明しようとしても、その言葉がヒューヒューと通り過ぎていくのが聞こえるに違いありません。一生懸命に伝えようとしている人たちを責めるつもりはありませんが、人助けをしようと努力している私たちは特に、相手の立場や状況を理解しようとするこの大切さを再認識すべきだと思います。

昨日、私たちはメンタル・ヘルス（心の健康）に関する素晴らしいワークショップをリーダーシップを取っている人たちを対象に開催しました。教会として、組織として、私たちの周りに蔓延している問題を掘り下げて行っていることをとても嬉しく思います。地域の人々と関わり、教会や組織の中で比較的オープンに議論されていない、と私が感じている課題に取り込むことにより、多くのことを得ることができ、現在お道を信仰していない教外の人々だけでなく、お道を信仰している私たちの多くにとっても助けと支えになることができると私は信じています。

昨日のワークショップに続く神殿講話をわざと庁長先生が私にご指名下さったのかどうかは分かりま



せんが、このワークショップの内容を知る前から、今日は自分のメンタル・ヘルス（心の健康）について少しお話ししようと思っていたので、親神様、教祖の優しい親心のお導きを感じずにはられません。

物事の背景知識を知ることは大事、という話で、父の話をしたいと思います。亡父は晩年、ほとんど外に出ず、屋内で歩行器の助けを借りて移動していました。ある日、私は父の専門医の一人から手紙を受け取りました。その手紙には「患者は1日20分歩いていると報告している」と書かれており、先生はそれを続けるよう父に勧めたとのこと。これを読んだとき、私は父が必要なとき以外に外を歩くのは見たことがないし、しかも20分も歩いているなんて見たことがない、と思いました。父にこのことを尋ねると、自分の部屋から神殿まで歩いてハッピーを着るのに少なくとも10分、お勤めが終わって部屋に戻るのにさらに10分ほどかかると説明しました。父が強調して言うには、実際はもっとかかるが、「運動しているという印象を医師に与えたくなかった」ので、低く見積もったのだとのこと。医師が父にこれ以上の運動を勧めなかったのは、父がすでに90代だったこともあるかもしれませんが、『すでに1日20分歩いている』からという理由もあったと思います。私は文句を言っているわけではないですし、医師達が父に対して素晴らしい治療を下されたということをはっきり申し上げたいのです

が、父の実際の状況を理解していれば、運動の勧め方が変わっていたかもしれません。

繰り返しになりますが、自分が話をしている相手、特にお助けしようとし、サポートしようとしている人たちを含め、相手の状況を推察し、理解しようすることは、自分がさせて頂こうとしている目標に到達するための鍵の一つとなります。お道を辿らせていただく道中、私たちの周りに現れる出来事やしるし、道しるべを通して教祖がお見せ下さっていること、教えてくださろうとしていることは何なのか、と私たちは理解しようとしていることがよくあります。

教祖 140 年祭を来年迎えるにあたり、三代真柱様が『道しるべ』の序文で述べられていることを少し紹介したいと思います。このように述べておられます。

「年祭の歴史は、私たちにとって単なる知識ではなく、年祭から年祭までの道すがらは、いわば案内人のような者です。」

また

「日々の生活はもちろんのこと、陽気ぐらし建設という目的を達成するためには、どうしても道しるべが必要である。」

「折角苦労して先人達がつけて下さった道を生かし、過ちを繰り返さず、陽気ぐらしへさらに前進するためには、道しるべを読み誤らぬようにせねばなりません。道しるべを傷つけてもなりません。道しるべをまとめた以上、道しるべを正確に読みとれる努力を尽くして、私に与えられている責任を果たしたいと思う次第であります。」

さて、昨日のワークショップで取り上げられた題目であるメンタル・ヘルス（心の健康）は、私に直接関係のあるテーマでした。

数年前、私は気分の落ち込みと不安を伴う重度の燃え尽き症候群と診断されました。それ以前にも、私は心の健康の問題を経験し、おそらくその症状や兆候を示していたのですが、簡単に言えば、その時に対処しておらず、それはおろか、当時は自分の状態や感情について他人に話すことすらしていませんでした。私がかまます苦しみ始めると、明らかに私の人生のさまざまな面に影響を及ぼし始めました。おそらくここにいらっしゃる方々の中にも、私が経験したことよりもはるかに高いレベルの精神的な強迫に対処しなければならぬ人が大勢いるはずですが、特に 50 代後半になって心の不健康が私にかなり大きな影響を及ぼし始めたとき、それに適切に対

処することができませんでした。若い世代の方はメンタル・ヘルスと言う心の健康の話題について話すことに慣れているかもしれませんが、私の世代の人々は不安や燃え尽き症候群、うつ病についてあまり公に話すことはなく、オープンに対処することに少し抵抗があると思います。

メンタル・ヘルス（心の健康）についての情報を少し皆さんにお伝えし、どれほど広く浸透しているのかについて、お話ししたいと思います。

- 世界的な問題であり、我々も無関係ではありません。

世界保健機関（WHO）によると、現在約 4 億 5 千万人が精神疾患と闘っており、世界における身体障害の最大の原因となっています。私の母国カナダでは、670 万人以上が精神疾患を患っています。実際、カナダ人の 2 人に 1 人は、40 歳になるまでに精神疾患を患う、あるいは患ったことがあるといえます。

- 人的コストはさらに大きい。

ほとんどの人は、精神疾患は死に至る病気だとは思っていません。少なくとも、癌や心臓病で人が亡くなるのと同じようには思っていません。しかし、依存症やその他の精神疾患と身体の健康との相互関係は否定できません。ここでもまた、その数字はあまりにもすぎまじいものです。

- カナダでは現在、オピオイドの過剰摂取による死亡者数が自動車事故による死亡者数を上回っています。
- 世界保健機関（WHO）は、40 秒に 1 人が自殺で亡くなっていると推定しています。
- 年間 4,000 人以上のカナダ人が自殺で亡くなっており、これは 1 日平均 11 人ということになります。
- 気分障害のある人は、長期的な病状を発症するリスクが非常に高い。
- 精神疾患を持つ人は、一般集団に比べて薬物使用の問題を抱える可能性が 2 倍である。
- 精神疾患や依存症の人は、一般の人に比べて早死にする可能性が高い。

ここからはアメリカからの情報です。

- 青少年における精神障害の有病率
 - 青少年の 49.5% が精神障害を患っている、もしくは患ったことがあると推定される。
 - 何らかの精神障害を持つ青年のうち、推定 22.2% が重度の障害、苦痛を抱えていた。
- ハーバード大学医学部研究

ハーバード大学医学部とクイーンズランド大学の

研究者が共同で行った大規模な調査によると、世界の2人に1人が、生涯のうちにメンタル・ヘルス障害を発症するという。この調査結果は、さまざまな裕福さの差がある世界29カ国のあらゆる地域の、15万人以上の成人を対象にした構造化された対面調査に基づいています。

障害がいつ、どのように生じるかを理解する

研究者たちはまた、精神疾患は通常、小児期、青年期、若年期に初めて発症するということが発見しました。

発症年齢のピークは15歳で、中央値は男性で19歳、女性で20歳でした。

私たちの周りに、メンタル・ヘルス（心の健康）の問題に影響されている人がどれほどいるのか、私は知りませんでした。この統計に基づけば、私たちは皆、関連する問題に苦しんでいる可能性のある人を知っているか、これから出会う可能性が高いということです。昨日のような話し合いは重要であり、私たちがお互いを理解し、つながるためのよい学習の機会であり、より深い洞察力を与えてくれます。私たちの周りで起きていることをより深く認識するようになれば、天理教のコミュニティとして、このような課題や状況にある人々にどのように手を差し伸べることができるかを考えることができます。

歳をとるとよくあることですが、私は身体的な不調に悩まされてきました。しかし、精神的な不調は、昔も今も私にとって最も困難な状態、困難な状況です。現在は以前よりは良い状態にあると感じていますが、おそらくまだデリケートな状態だとは思いますが、長い間苦しんだ末に、ようやく主治医と話をすることができ、主治医は私を心配して、生物学的、心理学的な検査をいくつも受けさせました。そして私は、初めて妻と子供たちにも自分の状態を明かしました。私が経験していることを100%理解してくれたわけではないかもしれませんが、話を聞いてくれた時、受け入れられ、支えられていると感じました。なぜもっと早くこのことを話しておかなかったのか、自分でもよくわかりません。興味深い余談ですが、主治医がそのとき、薬はすすめないと言ったことでした。話し合いの中で、先生は、私が家族や教会に支えられていると感じたのです。確かに、お勤めをし、おさづけを取り継いでもらい、さらに教えを探求求めようとして続けるうちに、私の状況をおさめるための道筋をお見せいただけるような気がしました。主治医は、私が教会の活動を休むつもりがないこと



を知っていたので、仕事を休むようにと勧めました。私が2週間なら休めますと言うと、彼女は「いえいえ、少なくとも3カ月から6カ月は休むことを勧めます」と言いました。最低3ヶ月と聞いたとたん、これは親神様と教祖がおぢばでの修養科を示して下さいと感じました。

この背景について少し申し上げます。数年前、庁長先生は私に、おぢばでの3ヶ月の修養科の講師役を引き受けてくれないかと尋ねられました。その時、私は簡単には引き受けず、させて頂きたいですが、おそらく仕事を引退した後になると思います、とお答えしました。診断の結果を受け、現在の私の状況はお導きでありチャンスであると理解した私は、講師のお役を引き受ける手配をしました。職場は私の教会への献身を理解し、そのお役を引き受けるという私の決断を支持し、長期休暇を取ることを許可してくれました。しかしその直後、コロナ禍が起り、おぢばでの日本語以外の修養科に日本人以外の講師が海外から参加できなくなりました。その後、コロナ禍の状況次第で翌年講師をつとめることができるかどうか尋ねられ、務めさせて頂くことを再び約束しました。家族も教会も職場も、この決断を再びサポートしてくれました。しかし翌年、コースが始まる前に、日本語以外の修養科の講師はもう日本国外からは選ばないという通達があり、この方針はそれ以降適用されることになったと聞きました。これからは私が講師を務める機会はないようでした。父の遺骨を天

理で納めるため、おぢばに戻った私は、どうかと考えていました。カナダに帰る日、天理を発つ車に乗ろうとしたその時、突然、教会本部のスタッフから、状況が変わったので、翌年に予定されている「修養科英語コース」の講師を引き受けてもらえないかと尋ねられました。教祖百四十年祭を控えた三年千日という貴重な時期の「おぢばの声」ですから、その場でお引き受けしようと思いました。しかし、家内、家族、教会、職場に加え、上級の会長、庁長先生にもお伝えした方が良く、と思いましたので、まずは相談してお返事させていただきませう、とお答えさせていただきました。もちろん、話し合いの結果、講師のご用をお受けしたいと返事させて頂きました。先に述べましたように、悩みや気持ちを話して、耳を傾けてもらえたことはとても大切で、私に希望を与えてくれました。正直なところ、初めて自分の悩みや気持ちを打ち明けた時に、「神様にもたれなさい」とか「お勤めをしなさい」といったアドバイスをされていたらあまり歓迎しなかったと思います。そういうアドバイスに敬意を払わないというわけではないのですが、私はすでにそのようなことをしようとしている、と感じたと思います。私が初めて自分の状況を話したとき、家族、教会の友人、職場の指導者は皆、同じようなことをしてくれました。彼らは皆、最初、積極的に耳を傾けてくれました。

論達第四号に、「身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治りを願い」とあります。

多くの人が私のことを祈ってくれていたと確信しますし、今も祈ってくれているかもしれません。

また、もう一つ、この困難を乗り越えるたすけになったのは、親神様、教祖、そして教会とのつながりを大切にしようとする努力し続けたことです。ですが正直なところ、時には天理教の活動に参加するには、特別な努力を必要とすることもありました。迷ったり、絶望感を感じたりしても、親心を求め、教えを實踐する努力を続けることは大切だと思います。そうする中に、辿るべき道をお見せ頂いていることに自分が気づくことができた、というのが私の経験です。先ほど申し上げましたように、心身ともに不健康な状態から完全に解放されたわけではありませんが、この状況が、自分の努力の方向性を定め、前進し、願わくば問題の根源に取り組む方向に向かう手助けになっていると思います。

いかなるのやまいとゆうてないけれど

みにさわりつく神のよふむき 4号25

よふむきもなにの事やら一寸しれん
神のをまくやま／＼の事 4号26

なにもかも神のをもはくなにゝても
みなといたなら心いさむで 4号27

だん／＼になにもをもはくときゝれば
みのうちよりもすゝやかになる 4号28

私は自分の精神的な身上をご守護として見る事ができるようになりました。私は恐らく心配な、危険な方向へ彷徨っていたのでしょう。そして、この道しるべは、より安全で好ましい方向へ向かう道を示すために、最も適切なタイミングで私の行く手に置かれたのです。私は句ということをするごく信じています。この教祖140年祭を前にした三年千日の句に、メンタル・ヘルス・ワークショップや、他の人々やコミュニティとつながろうとする努力など、お道の様々な人によってエキサイティングなことが行われています。教区の皆さんが、様々な知識、経験、興味、専門性を持っておられることにいつも感心させられますが、それを活かして、人とつながり、家族や友人、教会や地域社会のために貢献し、陽気ぐらし世界の建設に向けて一步一步前進していただきたいと強く願っています。

本日、私が皆さま方と分かち合いたいことは、私たちの周りには、どれだけ深く信仰している人でも、愛と気遣いで手を差し伸べてくれる人を必要としている人がたくさんいるだろうということです。私たち一人一人がそういう方々にしてあげられる何かを持っています、それがただ耳を傾ける、ということだけでもです。

お道を辿らせていただく道中、私たちはおそらくさまざまな場面で、さまざまな道しるべを見せられると思いますが、その中にも親心に気づき、積極的に反応できるようになることを願います。

貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

どうぞ皆さん、お元気で。





伝道庁連絡



春季大祭

祭主 庁長
 扨者 国領ロバート 福井陽一
 賛者 小島ブライアン 伊藤錦平
 指図方 田中知義
 神殿講話 国領ロバート (英)

教会事情

タミナル教会：神殿屋根葺替願、
 遷座祭日願 (2件)、臨時祭典願
 おはこび予定：2025年3月末
 鎮座祭：2025年5月30日
 奉告祭：2025年5月31日

アメリカ伝道庁人事

主事 (13名)
 雪本利清 山本 徹
 田中知義 木村昌人
 国領ロバート 岡崎マーロン
 大西 知 大倉レイモンド
 中富淳次郎 川上和海
 福井陽一 雪本 善
 林 孝彦

各委員会委員長

ふしん委員会：清水 ロバート
 布教委員会：中富 淳次郎
 教化育成委員会：国領 ロバート
 広報委員会：川上 和海
 祭儀委員会：田中 知義
 翻訳委員会：岡崎 マーロン
 FUTURE PATH：雪本 善

各会・委員長

婦人会：深谷宏美
 青年会：ウォング遼
 少年会：岩橋元博 2025年1月18日付

春季霊祭

3月15日(土)午後7時より、春季霊祭を執り行いました。今回は、ブレッシュ・ジョージ、クーパティエノ布教所初代所長の霊様を合祀致しました。

第85回アメリカ修養会

第85回アメリカ修養会が、6月15日(日)から7月12日(土)まで開講予定です。開講約1ヶ月前(5月18日)までに、英語・日本語クラスは2名以上、

スペイン語クラスは5名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

ようぼく一斉活動日

各地区責任者は、第4回開催の「計画書」を2025年3月末までに、書記(増野)に提出して下さい。

南カリフォルニア山火事募金・ひのきしん活動

南カリフォルニアでの山火事災害に対して、3月16日(日)まで、募金を募りました。

集まりました皆様からのお心寄せは、天理教国際たすけあいネットより\$15,000の義捐金を預かる予定ですので、それと併せてEmergency Network Los Angeles (ENLA)に寄付致します。

伝道庁人事

2022年12月21日より柔道師範として勤めている中林千世氏(大原)は、2025年3月24日に勤務を終えて帰国予定です。後任は先月着任された実弟の千界さんです。右写真。



中林千界さん

各会連絡

ふしん委員会

- ・MPホール2階北側の男子トイレの排水管の詰まりを修理しました。
- ・ひのもと文庫のスカイライトを取り替えました。

布教委員会

- ・2月15日に教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会を開催し、メンタルヘルスについて共に勉強させて頂きました。Zoomを含め、合計68名の参加がありました。
- ・4月17日に回廊拭きひのきしんを行います。帰参の方々は、朝づとめ45分前(午前5時)に、南礼拝場後方東側にご集合下さい。
- ・教会長・布教所長・出張所長の伝道庁月次祭当番を、今年半ばを目安に開催する検討をしております。当番表作成のため、後日係の者から連絡を取らせて頂きますので、よろしくお願い致します。

教化育成委員会

- ・名東大教会長より、おやさと練成会までの期間に、参加者の宿泊施設として詰所の使用許可をいただきました。今年は森下エイミーさんが担当してく

れます。

- ・2月22日、今年 Three Day Course に申込みをした3名の方に対してジョイワークショップを行いました。
- ・TSA 春季練成会を5月24日(土)～26日(月)で開催します。
- ・今年度の Three Day Course は、申込みが既定の数に満たなかったため、中止となりました。ニューヨークの Three Day Course は、3月28～30日の期間で開催する予定です。

広報委員会

- ・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先

川上 (kamishuyo@hotmail.com)

林 (takhayashi@gmail.com)

- ・伝道庁ホームページにて、「祭典講話」、「SoulFire」の記録ビデオ、「Stories inspired by Oyasama」等のアップデートに加え、「90年の歩み：写真展」、「アメリカ婦人会70年史」のスライドショーも掲載されています。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。また、domain name も Tenrikyo.com から TenrikyoAmericaCanada.org に変更されました。

翻訳委員会

- ・翻訳者ワークショップを、3月15日(土)午後1時～3時で開催しました。
- ・SDM コアメンバー翻訳会議を3月28日～4月4日の期間で開催します。(5～7下り目の最終確認)

Future Path 委員会

- ・8月30、31日に天理教原典の勉強会を開催予定。

婦人会

- ・天理教婦人会第107回総会
年4月19日(土)
午前9時30分 於 本部中庭
記念行事 支部の集い
別席強調月間 3月1日～4月30日
- ・アメリカ婦人会総会
5月17日(土)午前10時 於 伝道庁
- ・こかん様に続く会
5月17日(土)午後1時半 於 伝道庁

Following in
the Footsteps of
Kokan

STRENGTHENING COMMUNITIES TOGETHER

Date:
May 17th, Saturday

Time:
1:30pm - 3:30pm

Location:
Tenrikyo Mission
Headquarters in
America

Join us for a discussion
about Kokan followed
by a hinokishin activity
preparing snack packs
for the Downtown
Women's Center

IG @americaywg
Scan for more
Young Women's
Group Updates

少年会

- ・少年会総会は8月16日(土)に開催します。参加希望者のサインアップシートは3月16日(日)締め切りです。お声がけの程、よろしく願います。
- ・少年会キャンプを6月20日(金)～22日(日)の日程で行います。定員は56名で基本的に先着順となります。申込フォームのリンク
<https://forms.gle/3Wn58k7brDhhLuyi9>
- ・少年ひのきしん隊の女子カウンセラーを募集しています。希望者がおられましたら団長までご連絡ください。email:moto1884@gmail.com
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、上記メールアドレスまでお知らせ下さい。

青年会

- ・アメリカ青年会総会を、6月14日(土)に開催します。
- ・第99回天理教青年会総会は、10月25日(土)午後1時より本部中庭で開催予定です。

NYセンター

- ・3/28 スリーデーコース開催予定(～30)
- ・3/23 三石晋一郎(南紀)青年会人材派遣生帰国
- ・3/24 岡野明未(越乃国)婦人会人材派遣生帰国

教会長・布教所長・出張所長夫妻研修会



成人の節目、教祖140年祭に向けて ～ニューヨーク天理文化協会～

「もし音楽が食となるなら」コンサートシリーズ

ジュリアード音楽院の教授と学生、メトロポリタン歌劇場とニューヨーク・フィルハーモニックの音楽家、非営利団体シティ・ハーベストが共同で、天理文化協会で「もし音楽が食となるなら」と題したコンサートシリーズを8年間開催しています。この取り組みは、ニューヨーク市で食糧不足に苦しむ人々への意識を高め、支援を広げることを目的としています。コンサートの入場料は、食糧または寄付金です。寄付金は、ニューヨーク市の500のコミュニティフードプログラムに食糧を提供する団体、シティ・ハーベストを通じて分配されます。コンサートはいつも満席です。メトロポリタン歌劇場やニューヨーク・フィルハーモニックに出演するアーティストのパフォーマンスを間近で楽しめるハイレベルなイベントであるため、このシリーズは非常に人気があります。このプログラムの8年間で、シティ・ハーベストに4万ドル以上が寄付されました。天理文化協会だけではこのような感動的なコンサートを企画することはできませんが、地元の団体とつながり、信頼を得ることで実現できることに心から感謝しています。



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.